

今日のキーワード 『EU首脳会議』、英国のEU離脱交渉は？

『欧州連合（EU）首脳会議』が22～23日、ブリュッセルで開催されました。今回の『EU首脳会議』は、英国とフランスの総選挙後に、EU加盟国首脳が初めて集まる場として注目されました。特に、英国のEU離脱に関して、英国がどこまで譲歩するかが最大の注目点でした。ここでは、『EU首脳会議』における英国のEU離脱交渉に焦点を当てます。

ポイント1

メイ首相は英国在住のEU市民の権利保護を提案 英国は協調姿勢示す

- 英国のメイ首相は『EU首脳会議』で、英国で暮らす約300万人のEU市民の居住権などについて、基準日を設定して5年以上英国に滞在していれば離脱後も英国人と同様の医療、教育、年金、社会保障などを受けられるようにする方針をEU側に提案しました。EU市民の取り扱いは離脱交渉の優先分野であり、メイ氏は協調姿勢を打ち出しました。また、メイ氏は在英のEU市民の権利などを巡って生じる問題について、EU司法裁判所が管轄することには否定的な考えを示しました。
- 英国に本部がある二つのEU機関、欧州銀行監督機構（EBA）と欧州医薬品庁（EMA）については、移転先を11月までに決めることになりました。

ポイント2

英国の歩み寄りで一歩前進 EU側は声明文で「期待以下」

- メイ英首相が英国に住むEU市民の権利を保護すると提案したことに対して、ドイツのメルケル首相が「よいスタートが切れた」と評価するなど、交渉は一歩前進したと判断されます。
- ただし、EU側は声明文で「EUの期待以下」と評しました。EU市民の法的地位を守るのがEU司法裁判所なのか、英国の裁判所であるのか、さらにEU市民の完全な移動の自由が保障されなくなる基準日がいつなのか、家族の扱いはどうなるのかなど基本的な問題が不明なためです。



今後の展開

EU離脱交渉は英国が妥協する方向か

- 今後は、EU離脱に伴う未払い分担金を英国に求める「離脱請求書」（最大600億ユーロ規模）をめぐる協議が年末にかけて進む予定です。英国の置かれている内外の状況を考慮すれば、英国政府が徐々に妥協していく展開が想定されます。ただし、英国があまりに妥協を急ぐと、現在の脆弱な政治基盤ではメイ政権が崩壊する恐れがあるため、離脱交渉の急速な進展は期待しにくいと見られます。

ここも チェック!

2017年6月20日 『フランス下院選挙』、マクロン新党が勝利
2017年6月 9日 英国の総選挙（速報）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。